



*Ensemble Dimanche*

# アンサンブル ディマンシュ 第89回演奏会

2021年9月18日（土）

タワーホール船堀 大ホール



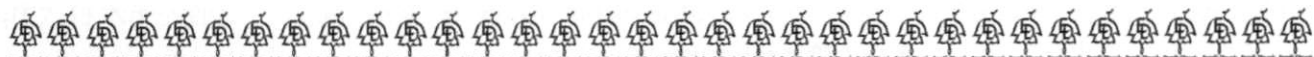
## 【プログラム】

～名曲の陰にサリエリあり？～

サリエリ	序曲「海の嵐」
ヴォジーシェク	交響曲ニ長調op.23

♪休憩♪

ベートーヴェン	交響曲第6番ヘ長調op.68「田園」
---------	--------------------



## 【指揮者プロフィール】



平川 範幸(ひらかわ のりゆき)

福岡県出身。

福岡教育大学卒業。上野学園大学研究生(指揮専門)にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣、沼尻竜典の各氏に師事。東京音楽大学特別講座にて、パーヴォ・ヤルヴィの指揮公開マスタークラスを受講する。

これまでに、音楽理論を中原達彦氏に、ピアノを田中美江氏に師事。

新日鉄住金文化財団指揮研究員として、紀尾井シンフォニエッタ東京、東京フィルハーモニー交響楽団のもとで活動する。その後東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員として、宮本文昭、飯守泰次郎、矢崎彦太郎の各氏をはじめとする指揮者のもとで研鑽を積む。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、千葉交響楽団、浜松フィルハーモニー管弦楽団、東京混声合唱団、広島ウインドオーケストラなどを指揮する。

2016年より2021年まで、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督を務める。

## 【曲目紹介】

### ～名曲の陰にサリエリあり？～

今回の演奏会のテーマの主演は、モーツァルトを扱った映画などで悪役を演じたイタリア人の作曲家、アントニオ・サリエリです。サリエリは、その悪名とは裏腹に、若き作曲家達に多大な影響を与えた教育者でもあります。今回は、サリエリの作品とサリエリから直接的あるいは間接的に影響を受けた作曲家の作品でプログラムを組みました。

#### ◆サリエリ:序曲「海の嵐」

サリエリ(1750-1825)は、その作品よりも、嫉妬のあまりモーツァルトを毒殺したとの嫌疑をかけられた作曲家として有名になりました。生前にもそのような「噂」はあったようですが、1830年にロシアの作家プーシキンが書いた「モーツァルトとサリエリ」という戯曲がこの「噂」を世界中に広めたようです。しかしながら、毒殺説自体が立証されておらず、また、社会的地位にも経済的にも圧倒的に恵まれていたサリエリがモーツァルトに嫉妬するとは考え難いため、この「噂」は噂に過ぎないと思われまます。

サリエリは、オペラ専門の作曲家で、オペラや合唱曲以外の管弦楽作品はほとんど残していません。作曲家として秀逸であるかどうかは別として、実は「すごい人」で、ウィーンの宮廷楽長という名誉職に就いて音楽監督・指揮者として活躍したほか、教育者として若い作曲家を多く育てています。その門下からは、ベートーヴェンをはじめシューベルト、リスト、ツェルニー、フンメルなど名立たる作曲家を輩出していますが、弟子からは謝礼を取らず、才能のある弟子には支援を惜しまなかった慈善活動家であったとも言われています。

序曲「海の嵐」は、1800年に初演された歌劇「ファルマクーザのチェザーレ(シーザー)」の序曲の副題で、時化の海で波と闘う船と船員を描写した音楽です。最後は徐々に静まっていき、無事港に着いた船からシーザーが下り立つところで歌劇が始まります。一説によると、ベートーヴェンの田園交響曲の第4楽章「雷雨、嵐」は、この曲を手本として作られたということです。事実なら、まさに「名曲の陰にサリエリあり？」ですね。

## ◆ヴォジーシェク：交響曲ニ長調op. 23

ヴォジーシェク(ヤン・ヴァーツラフ)(1791-1825)は、1791年にボヘミア(現チェコ領)のヴァンベルクに生まれた作曲家です。1813年には活動拠点をウィーンに移しましたが、1825年に34歳という若さでこの世を去りました。ウィーンでは、トランペット協奏曲で有名なフンメル(1778-1837)に師事していますが、フンメルはサリエリの門下生なので、ヴォジーシェクはサリエリの孫弟子に当たります。また、尊敬していたベートーヴェンやシューベルトに出会って親交を深め、その影響を受けています。作品はピアノ曲が主ですが、ベートーヴェンはヴォジーシェクの作品を高く評価していたと言われています。

ヴォジーシェクは、楽曲としての「即興曲」の創始者として音楽史に名が刻まれており、この「即興曲」というジャンルは、シューベルトやショパンに引き継がれていきます。ヴォジーシェクがいなかったら、有名なショパンの「幻想即興曲」も単に「練習曲」と呼ばれていたかもしれません。

交響曲ニ長調は、1823年に完成したヴォジーシェク唯一の交響曲です。ベートーヴェンの影響が顕著で、作品の断片のようなものが随所に顔を出しますが、旋律や和声にはシューベルトの色合いもあり、古典的な中にもロマンティズムを持った作品です。

### 第1楽章 Allegro con brio ニ長調 2/2拍子

序奏はなく、フランクの交響曲を明るくしたようなモチーフを持った第1主題で始まります。このモチーフは楽章の至る所に出てきます。

### 第2楽章 Andante ロ短調 2/4拍子

4小節のファンファーレ風な序奏の後、チェロがオペラ・アリア風の物悲しい旋律を歌います。ちなみに当時のウィーンは、ロッシーニ・ブームの最盛期でした。曲の途中に出てくる3連符の伴奏や掛け合いは、ベートーヴェンの「英雄」の第2楽章やレオノーレ序曲第3番に似ています。

### 第3楽章 Scherzo, Allegro ma non troppo ニ短調 9/8拍子

小さい3拍子3つで大きい3拍子を形成している複雑なスケルツォです。「第九」の第2楽章の途中にも「3小節を一つの小節とみなして」と書かれたところが出てきますが、これも同じことです。ただ、「第九」が書かれたのは1824年で、この曲の完成より少し後です。もしかしたら...

### 第4楽章 Finale, Allegro con brio ニ長調 2/4拍子

弾むような短い序奏ののち半音階的な第1主題が始まります。ハイドンのフィナーレのような経過部に続く第2主題は、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を思わせます。

## ◆ベートーヴェン：交響曲第6番へ長調op. 68 「田園」

ベートーヴェン(1770-1827)は、1795年にサリエリに出会い、その後師事しています。1797~98年に書かれた作品12のヴァイオリン・ソナタ(第1番~第3番)はサリエリに献呈されています。師への敬意の意味もあるのですが、宮廷楽長として不動の地位にあったサリエリの名を自分の作品に残すことで、箔を付けたかったのでしょう。

交響曲第6番「田園」は、1808年初頭、「運命」の完成直後に本格的に書き始められました。従来、「運命」と並行して書かれたとされていましたが、最近の研究で、両者の本格的な作曲時期については、ほとんど重なっていないことが分かっています。初演は1808年12月22日、「運命」と一緒のプログラムで「田園」が先に第5番として演奏されています。

ベートーヴェンは、交響曲を作曲するたびに新しい試みをしています。この曲は交響曲史上初の「標題音楽」です。「英雄」でも副題を設けていますが、内容はあくまで「絶対音楽」です。この交響曲では、「田園」をテーマに、各楽章に標題が付けられており、絵画のごとくそれぞれの風景を描いています。また、交響曲としては珍しい5楽章形式ですが、第3楽章~第5楽章は切れ目なく演奏され、楽章間の関連性を持たせています。

なお、この曲では「五度(ドーソの間隔:反転すると四度)の持続音や動き」が多用されています。これは、ミュゼット(バグパイプ)という楽器を模したもので、古くから牧歌的な曲でよく使われています。

### 第1楽章 田舎に着いた時の楽しい気分 Allegro ma non troppo へ長調 2/4拍子

序奏はなく、ヴィオラとチェロの「五度の持続音」の上に有名な主題が現れます。この楽章と次の楽章では、トランペット、ティンパニなどの音の大きな楽器が除かれています。長閑な気分を保ちたかったからでしょうか。

### 第2楽章 小川のほとりの風景 Andante molto mosso 変ロ長調 12/8拍子

内声弦楽器が奏でる小川を表す主題に対し、第一ヴァイオリンがそよ風のようなモチーフで応え、5小節目からはその主題を引き継いで発展させます。終盤には、フルート、オーボエ、クラリネットが鳥(ナイチンゲール、鶉、郭公)の鳴き声で競演します。

### 第3楽章 田舎の人々の楽しい集い Allegro へ長調 3/4 - 2/4拍子

標記されていませんが、スケルツォとトリオで、田舎の人々が楽しく踊っている様子を表しています。トリオに相当する部分は2/4拍子に変わり、低音弦楽器に出るアクセントの付いた「四度の動き」が印象的です。この楽章からトランペットが加わります。

### 第4楽章 雷雨、嵐 Allegro へ短調 4/4拍子

この楽章では、ピッコロ、2本のトロンボーンとティンパニが加わり、雷鳴や嵐の効果を増しています。途中、コントラバスに出てくる地響きのようなパッセージは、楽器の性質上譜面どおり演奏するのは不可能で、効果音としてそれらしく聞こえれば良しとしましょう。

### 第5楽章 嵐のあとの喜びと感謝 Allegretto へ長調 6/8拍子

前楽章から切れ目なくこの楽章に入ると、ヴィオラの「五度の持続音」の上にクラリネットとホルンが主題の断片を奏で、盛り上がったところで主部に入ります。この主部の主題は変奏曲のように楽器や形を変えて繰り返されます。

#### ♪ 第89回メンバー ♪

第1ヴァイオリン	赤松 栄、佐藤克哉、三瓶政一、☆時山響子、西村 実、本山まり子
第2ヴァイオリン	相羽あゆみ、飯田美穂子、石嶺寿子、関根佳子、森上由紀、♪森 未知
ヴィオラ	柴野かおり、下山純也、♪関口孝司郎、山口 彰
チェロ	緒方 淳、工内智恵、寺山知宏、永田隆司、♪三次摂子
コントラバス	江川博之、♪須賀敬亮

☆コンサートマスター ♪弦楽トップ

ピッコロ	上野京子
フルート	谷口玲子、徳植俊之
オーボエ	住田憲昭、山口高司
クラリネット	鈴木千暁、富澤涼太
ファゴット	越島康太郎、星野未央
ホルン	尾形武一、町田明子
トランペット	鴨狩公一、藪部晴信
トロンボーン	桜田健彦、星野佑太
ティンパニ	星野武徳

トレーナー	戸澤哲夫 (東京シティフィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター)
練習指揮	山上孝秋

#### ♪ 次回の演奏会ご案内 ♪

日時：2022年2月11日 (金・祝)  
場所：府中の森芸術劇場 ウィーンホール  
指揮：平川 範幸  
曲目：ベートーヴェン 交響曲第7番イ長調op. 92  
ベートーヴェン ヴァイオリン協奏曲ニ長調op. 61 (独奏：戸澤 哲夫)  
ほか

詳細はHP <http://www.e-dimanche.jp/> をご覧ください。  
※招待券をご希望の方は、アンケートにご記入ください。



# 本日のアンコールについて



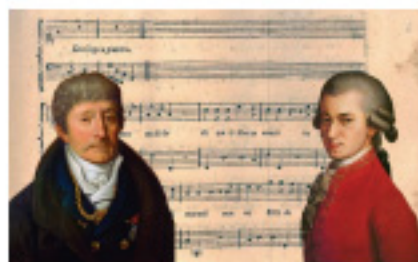
本日のアンコールは、おそらくサリエリが最も影響を与えたと思われる

**モーツァルト** の

**3つのドイツ舞曲 K.605～第3曲ハ長調「そりすべり」**

でした。

なお、本日は、二管編成オーケストラ用に編曲された版を基に、当団員が本日のアンコール用に再編集した版を使用しています。



サリエリとモーツァルトは共作していた!

「Per la ricuperata salute di Ophelia  
(オフィーリアの健康回復に寄せて) 1785 年作」  
ブラハのチェコ音楽博物館で発見、2015 年認定